




令和5年度 基本評価調書		所管部局	教育庁	所管課	高校教育課	
施策名	国際理解教育の充実			施策コード	1111	
政策体系(中項目)	北海道の未来を拓く人材の育成			政策体系コード	3(2)B	
関連重点戦略計画等	北海道創生総合戦略					事務事業数
						5
特定分野別計画	北海道教育推進計画 北海道総合教育大綱					
SDGs				総合判定	やや遅れている	
予算額(千円)	R 5	21,171千円	R 4	17,064千円	R 3	17,257千円

施策目標	活力ある未来を拓くため、若者の留学支援や、大学等の高等教育機関と連携・協働した教育を推進し、グローバル化に対応した世界で活躍できる多様な人材を育成する。
現状と課題	<p>(国際社会の一員としての自覚の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化が進展する社会において、多文化共生社会の実現のため、外国語やその背景にある文化を積極的に理解しようとし、様々な価値観を持つ人々と共に協調して生きていく態度を養うための教育活動を推進する必要がある。 <p>(自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の英語力が高校卒業段階で英検準2級程度の以上の英語力を有する生徒の割合が、全国平均を下回っているため、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」に関する能力を総合的に養い、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するため教育活動を推進する必要がある。
前年度二次評価意見	
対応状況	

〈主な取組〉

今年度の取組	<p>(国際社会の一員としての自覚の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関等と連携するなどして、異なる文化や外国人とのふれあいを深める体験交流等の機会の充実の促進 ・海外留学やオンライン交流など、高校生の国際理解や国際交流の機会の充実・支援の推進 <p>(自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員向けの研修や授業研究セミナー等を通して、教員の教科指導力の向上を図り、子どもたちが積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育成するための英語教育の推進
実績と成果	<p>(国際社会の一員としての自覚の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化や外国人留学生と交流する機会を充実させるため、「Hokkaido Study Abroad Program」を実施し、連携する道内大学の留学生と高校生との交流を行った。R3は新型コロナウイルスの影響により、オンライン実施となったが2会場に拡大できたことから、参加生徒が増加し、生徒の国際理解等の意欲向上につながった。R4は対面で開催し、体験交流等により、一層国際的な考えや異文化への理解を深めることができた。(参加高校生：R1・29名、R2・24名、R3・34名(2会場にてオンライン開催)、R4:24名) ・R1は交換留学を対面で実施(アルバータ州、ハワイ州)。R2、R3は新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、オンライン交流を実施したことにより、より多くの生徒が参加し、国際交流の機会の増加が図られた(アルバータ州、ハワイ州、ニュージーランド、タスマニア州)。R4はR1までと同様対面で実施。(アルバータ州、ハワイ州)。 <p>(自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語における見方・考え方を活用して、生徒が主体的に探究に取り組むことができるよう、道内4ブロックにおいて研究協議会を開催(11月1日、16日、17日、12月8日)し、授業改善に資する。
参考HP①	国際交流ポータルサイト https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/a0008/intl/top.html
参考HP②	学校教育局高校教育課 https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/117010.html
参考HP③	

令和5年度 基本評価調書

【3(2)B_1111】 国際理解教育の充実

〈指標分析〉 ⇒ 成果指標は、原則、取組項目ごとに1つ以上、全体で5つ以下とする

指標名①	維持	%	R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
国際理解教育を行っている公立高校の割合	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0%	A
	実績値		100.0	100.0	100.0			

設定理由 姉妹校との生徒交流や外国人による講演などを行った公立高校の取組状況を測る指標であり、国際的な分野で活躍できる人材を育成や国際理解の充実の成果を測る指標として設定

指標公表時期 毎年調査、9月公表 出典(根拠計画等) 管内高等学校等の状況調査

分析(主な取組と成果)

目標値は達成されているため、各学校における国際理解教育の継続的な実施に向け、指導助言を行った。

指標名②	増加	%	R元年度	R2年度	R3年度	最終目標(R9)	達成率	指標判定
道内の公立高校における留学者(短期及び長期)の割合	目標値		0.65	—	0.71	1.00	1.4%	D
	実績値		0.35	—	0.01			

設定理由 グローバル人材の育成に関する施策の進捗を図る指標であり、諸外国の人々と触れ合いながら国際理解を図る機会の充実を図るといった施策の目標に向け、高校生の国際理解や国際交流の機会を充実・支援するという取組に関する成果を測る指標として設定

指標公表時期 毎年調査、実績年度の翌年度9月公表 出典(根拠計画等) 管内高等学校等の状況調査

分析(主な取組と成果)

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、渡航制限があったことから留学者数は減少しているが、異文化や外国人留学生と交流する機会を充実させるため、「Hokkaido Study Abroad Program」の実施のほか、海外の学校とのオンラインでの交流の機会を増やしたことにより、高校生の国際理解や国際交流の機会は保つことができている。

指標名③	増加	%	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R9)	達成率	指標判定
高卒段階でCEFR A2(英検準2級相当)以上の英語力を有すると思われる生徒割合	目標値		45.0	50.0	50.0	60.0	96.8%	B
	実績値		43.5	44.1	48.4			

設定理由 小・中学校における目的や場面、子どもたちの興味・関心に応じた英語によるコミュニケーションを図る授業、高校等における言語活動の充実やパフォーマンステストの実施など、4技能5領域のバランスの取れた英語力の育成に向けた授業改善の推進を図るための取組に関する成果を測る指標として設定

指標公表時期 毎年調査、実績年度の翌年度5月公表 出典(根拠計画等) 公立高等学校における英語教育実施状況調査

分析(主な取組と成果)

英語能力に関する外部試験を受験した生徒の割合が減少(R3:51.2%、R4:45.3%)したことにより、目標を達成することができなかった。今後、道教委主催の各教科等教育課程研究協議会や授業研究セミナー等において、授業改善や外部試験の受験について指導助言を行う。

指標名④			R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
	目標値						—	—
	実績値							

設定理由

指標公表時期 出典(根拠計画等)

分析(主な取組と成果)

指標名⑤			R3年度	R4年度	R5年度	最終目標(R7)	達成率	指標判定
	目標値						—	—
	実績値							

設定理由

指標公表時期 出典(根拠計画等)

分析(主な取組と成果)

〈取組分析（連携状況、緊急性・優先性）〉

連携状況	(課題) 外国語科の各科目の内容の充実を図るため、中学校における学習内容との接続の観点を踏まえた高等学校における英語教育の充実に向けた取組の推進や、大学教授を講師とした研修会等の実施が必要である。
	(取組) 中学校の英語教育の現状を把握し、授業研究セミナー(11月1日、16日、17日、12月8日)において、それを踏まえた高校における英語教育の在り方について指導助言を行うとともに、大学教授を講師として招聘し、授業改善に向けた取組の一層の充実を図る。
緊急性 優先性	(課題)
	(取組)

〈取組分析（その他の統計数値等）〉

成果指標で課題への対応を説明済

統計数値等①	過年度①	過年度②	最新年度
分析等			
(課題)			
(分析等)			
統計数値等②	過年度①	過年度②	最新年度
分析等			
(課題)			
(分析等)			
統計数値等③	過年度①	過年度②	最新年度
分析等			
(課題)			
(分析等)			

〈総合判定〉

指標判定	B	連携状況	○	総合判定	やや遅れている
		緊急性・優先性	—		
		その他の統計数値等	—		

※ 成果指標の指標判定が「D」の指標

(② 一道内の公立高校における留学者(短期及び長期)の割合)

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	国際的な分野で活躍できる人材の育成の推進のため、各学校における国際理解教育の継続的な実施に向け、引き続き、指導助言を行う。
	②	新型コロナウイルス感染症の位置付けが、令和5年5月8日から5類に移行したが、対面での交換留学のほか、引き続き、外国人留学生とのオンライン交流を推進し、国際理解に効果的な取組の充実を図る。
	③	主体的に探究に取り組む生徒の育成のため、道教委主催の各教科等教育課程研究協議会や授業研究セミナー等において、学習指導要領の趣旨を徹底するとともに、効果的な指導方法に関わるワークショップや研究協議等を通し、教員の教科指導力の向上を図る。また、パフォーマンステスト実施の推進や、その学習評価の充実を図る。

〈二次政策評価〉

二次政策評価	
--------	--

令和5年度 事務事業評価調書				施策名	国際理解教育の充実	施策コード	1111
----------------	--	--	--	-----	-----------	-------	------

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局 室名	前年度からの 繰越事業費 (千円)	事業費 (千円)	執行体制			フル コスト (千円)	一次政策評価		二次政策評価意見	
								うち 一般財源	本庁	出先機関		人工計	対応 方針 番号		方向性
0777		事務	国際交流推進に係る企画及び調整等に関する事務	国際理解教育及び国際交流の推進に係る各種調整・調査等の実施	高校教育課		0	0	0.4	0.00	0.4	3,136	①②③	改善(指標分析)	
0778		一般	高校生交換留学促進事業費	国際的視野を持ち本道の国際交流をリードするグローバル人材の育成を推進するとともに、姉妹提携地域等との友好と親善を促進するため、同地域等と高校生の交換留学を実施	高校教育課		9,457	2,313	3.1	0.30	3.4	36,113			
0813		一般	帰国・外国人児童生徒等教育推進事業費	帰国・外国人児童生徒に対するきめ細かな指導支援体制を整備	義務教育課		2,018	1,502	0.2	1.60	1.8	16,130			
0791		一般	グローバル人材育成推進事業	豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神を身に付け、国際的に活躍できるグローバル人材を育成するため、高校生の海外留学等を促進する	高校教育課		8,247	2,247	0.5	0.00	0.5	12,167			
0718		一般	帰国・外国人生徒等教育推進講師報酬	日本語指導が必要な生徒に対する指導・支援を行う講師の報酬	高校教育課		1,449	967	0.1	0.10	0.2	3,017			
計						0	21,171	7,029	4.3	2.0	6.3				